

今年度もいよいよ後半です。学級の児童生徒の人間関係や、学級の生活の中に生まれる問題に対する自力解決の様子はいかがですか。校内での活動が多くなり、落ち着いて学習活動に取り組める時期です。改めて、学級の児童生徒の理解に努め、後半の学級づくりへの見通しをもちたいものです。学力・体力を伸ばし、心を豊かにするための基盤は学級づくりです。



<小学校>

Let's sing a song!

学級で歌を歌う目的は、「素晴らしい合唱」をすることではなく、学級内の心の絆を「声を合わせる」ことで強めていくことです。



こんなひと工夫を

- (選曲は) 簡単な歌を無理なく。伴奏はCDで。時にはみんなが好きなヒット曲を笑顔で歌うことも学級の絆を強めます。
- (児童は) 指揮やCD係、選曲係等、係活動を任せることでやる気が高まります。
- (先生は) 子どもの中に入って一緒に歌いましょう。先生の声の大きさにつられて、子どもたちの声も響きます。
- (校外で) 修学旅行などの行事では、手作り歌集で元気に歌いましょう。みんなで歌った歌は一生の思い出です。

「聴き映え」よりも、子どもたちの気持ちが歌によって一つになる姿を大切に!

安心して生活できる環境の工夫 —認め合えるクラスの雰囲気づくり—

漢字の読みに困難さのあるAさんのために、担任の先生はふりがな付きのプリントを用意しました。ところが、周りの子どもたちから、「Aさんだけずるい」「私もそっちのプリントがいい」などの声が上がりました。そこで、翌日から全員の児童に対して2種類のプリントを用意し、分かりやすい方のプリントを選択してよいことを伝えました。すると多くの子どもたちが両方のプリントを持っていきました。しかし、数日経つとほとんどの子どもたちはいつものプリントだけを持っていくようになりました。その中のある子の生活記録には、「私にはふりがなは必要なかったけど、Aさんにとっては大事なんだということが分かりました」と書かれていました。



Aさんの困難さや必要な支援について周りの子どもたちが理解できるように工夫することが大切です。その理解が深まることで、互いに認め合えるクラスの雰囲気づくりにつながると考えます。

<中学校>

人権感覚を育てる「4M」のすすめ

学級づくりの基盤に人権教育を位置付けてみましょう。次の4つのMを意識して、例えばこのような接し方をしてみませんか。



「見下さない」…「それではだめだ」と言う前に「そういう考え方もあるな」と認めてみませんか?



「見逃さない」…「後で話そう」ではなく、「そのとき」の教師の想いを率直に伝えるようにしてみませんか?



「見落とさない」…教室に作品を展示するとき、全員の生徒がもれなく位置付くようにしてみませんか?



「見捨てない」…生徒がミスをしたとき、その背景や原因を様々な視点から見つめてみませんか?

教師の姿勢が教室に広がり、生徒の「人権感覚」を育むことにつながります。

学級全体が関われる選挙にしましょう

文化祭が終わり、生徒会の役員改正選挙を控えている学校も多いことでしょう。短学活の時間などに次のような活動を取り入れ、学級全体が選挙に関われるようにしましょう。

- 1 学年…選挙公報を学級内で読み合わせるなどして選挙への関心を高め、学級訪問などで適切な意見や質問を出せるようにしておきましょう。
- 2 学年…全員が選挙公約を考え、班や学級で発表をし合う活動を取り入れるなど、学級全体で選挙に臨むという意識をもたせましょう。
- 3 学年…自分たちが中心となって進めてきた生徒会活動を学級でも振り返って成果や課題を確認し合い、よりよい生徒会をつくるための建設的な質問・意見を班や学級で考え合って、引継ぎへの思いを高めましょう。

